

絵画の仲間たち



梅澤千絵子さん

私は以前、3年程油絵を習っていました。そのときの先生である梅澤敏夫さん（画壇名：宇芽野礼）は、平成14年に他界。現在、梅澤さんの遺志を継ぎ、娘さんの梅澤千絵子さん（館林市在住）が絵画教室を開いています。梅澤さんに、絵画や父敏夫さんのことについてお話を伺いました。

絵画大賞を受賞できたのも父が画家だったおかげです

私は高校卒業後、もっと絵の勉強をしたいと思い都内の美術大学へ進学しました。そこは作品を描くには最高の環境で、人間関係にも恵まれ自分自身大きく成長することができました。

大学院在籍中の25歳の時に、初宇芽野絵画研究所
梅澤千絵子さん（館林市）



めて出展した上野の森美術館大賞展で、1,440点の応募作品の中から最高賞の絵画大賞を受賞。うれしいと同時にびっくりしました。この賞を受賞できたのも、父親が画家という環境に生まれ育ったおかげだと思います。

父は絵に対しては厳しく周りの人には優しくかった

父は、職人気質でとにかく絵が一番という人でした。そんな父は、絵に対しては厳しく自分の信念を持っていました。油絵は、色を重ねていくので、「これでよいと思えばだめになる」といつも絵に対しては妥協しませんでした。

でも、人が好きで、いつも周りには絵の仲間がいました。父は56歳という若さで他界しましたが、絵に一生を捧げ幸せな人生だったと思います。「毎日この絵を見ていてもあきないね」と、母が言うように1枚1枚丁寧に描かれていますと感心しています。私は、まだまだ未熟なところばかりですが、絵を教えながら多くの人の心をいやす作品を描き続けていきたいと思っています。

千絵子さんは、現在2児の母で子育てをしながら絵画教室や絵筆を持ってキャンパスに向かっていきます。頑張って千絵ちゃん！

何か趣味を持ちたい：と思っていたころ、知人の紹介で油絵を始めることにしました。最初は何も分らない状態でしたが、先生から「毎日筆を持ちなさい」「スケッチ、デッサンも毎日すること」などと励まされ、また絵の仲間と交流もできました。

絵を始めて3年が過ぎたころ、海外勤務の夫が病気になる、夫の元へ渡航することに。そこでの生活は、見る物聞く物、すべてが新鮮で絵になる風景があちこちにあり、時間を見つけてはスケッチブック片手に夢中で歩き回り写生したものです。また、絵の共通の友人がたくさんできたり、ピカソやミロ、ダウインチ、ラファエロ、セザンヌなどの絵を鑑賞できたりしたことが宝物になりました。今回の特派員レポートでは、邑楽町で活動している絵の仲間たちを紹介していきたいと思えます。そして、すばらしい絵画の世界をご覧いただき、ちよっと一息心を休めたいではないでしょうか。

●街角特派員は、読者の皆さんの代表です。毎年公募で決定。一人が年2回ずつ、「広報おうら」にレポートを掲載します。町づくりの方向への意見や気になる事業の進捗状況、または自分が皆さんにアピールしたいことなど、突撃取材と顔に衣着せぬ直言で、皆さんの「そこが知りたい」に答えます。



街角特派員
齋藤史子
(新中野・33区)

- ◀「記憶の風化」 宇芽野礼 1996年 現代美術家協会現展賞
- ▼「鳥空間ーさまよいー」 梅澤千絵子 2001年第19回上野の森美術館大賞展絵画大賞作品



邑楽町公民館主催の教室から始まった油絵や水彩画などを楽しむサークルを紹介します

邑彩会会長
片桐修三さん（明野・34区）



気が向いたときや感動を覚えたときに自由に描く

私が油絵を始めたのは、25歳のときです。兄から油絵の道具を一式もらったのがきっかけでした。しばらく油絵を描いていました。が、仕事が忙しくなり中断し、会社を退職後、時間に余裕があるので、再び油絵を始めました。

絵は義務的に描いては、いい作品が描けません。美しい景色や感動した風景などに出会ったときに描きます。また、旅行先でもスケッチブックを持ち歩いていきます。絵を描くことはもちろんですが、地元の人たちとのさまざまな出合いが作品づくりにいい影響を与え、完成した絵を見ると旅の出来事が思い出されます。



モデルさんを招き描くこともあります



邑彩会副会長
山本信男さん（新中野・33区）

ここから絵の文化を発信し
邑楽町を知ってほしい

私は、子どものころから絵が好きで、いつか本格的に絵を描いてみたいと思っていました。45歳のときに邑彩会に入り、初めて油絵を勉強しました。絵に対する自分の考え方は、「きれいに描いて人

No.183
まちなか
街角特派員
レポート



邑彩会

邑彩会は、昭和62年1月に発足した油絵を楽しむサークルです。メンバーは、50～70歳代の男女20人。毎月第1・3水曜日の午後1時～3時まで邑楽町公民館で活動しています。発足当時は、宇芽野礼先生に指導を受けていましたが、現在は自由制作で画材（油絵、水彩画、パステル、木版画）も自由です。会員の中には、公募展などに挑戦している人もいます。モチーフは邑楽町の風景や近隣地域の風景、白鳥などの動物や、静物、人物などです。絵筆を持ってキャンパスに向かい気分をリフレッシュしてみませんか。現在、メンバーを募集中！絵に興味のある人は、ぜひ見学に来てみてください。お問い合わせは邑楽町公民館☎88-1290へ。

に喜ばれる」ということ。油絵を始めてから、ものを美しく見られる感動を知りました。花や木、何でもないものにも感動できるようになりました。

れる場所であり、人と人との出合いの場でもあります。個展の楽しさを作家に味わってもらいたい、そして多くの人に個展の楽しさを知ってほしいと思います。

冬の蓮池

【パステル】

橋本キヨ江さん
（西ノ根宮内中島・24区）



森のレストラン

【水彩画】

星野英昭さん
（光善寺・15区）



多々良沼

【油絵】

山本信男さん
（新中野・33区）



慶徳寺山門

【油絵】

片桐修三さん
（明野・34区）



主な画歴 国展入選、群馬県展入選、一期会新人賞

かつて宇野野礼先生が講師を務めた平成元年発足の油絵を楽しむサークルを紹介します

邑美会講師
白石榮さん（十三坊塚・6区）

邑美会会長
小林なみ子さん（本郷江原・29区）



絵は生きがいの一つ 家族の協力のおかげです

私は子どものころから絵が好きで、本格的に始めたのは平成3年に邑美会に入会したのがきっかけです。邑美会では、宇野野礼先生に師事。現在は、白石榮先生から指導を受けています。

邑美会は、絵を描くことが好きな人たちが、親ほくを深めるために旅行や絵画鑑賞などを楽しむ機会も作っているんです。絵をはじめ俳句などの活動ができるのも、家族の協力があるからだに感謝しています。今、4人目の孫ができたので、農作業と家事で、なかなか絵を描く時間がありませんが、時間にゆとりができたらまた絵を描きたいと思っています。

新鮮な気持ちと基本を 忘れずに描いていきたい

小さいころから絵が好きでしたが、油絵を始めたのは昭和62年の邑楽町公民館の絵画教室に参加したのがきっかけです。玄関に自分で描いた絵が飾れたら、という気持ちでした。教室終了後、もつと絵をやりたいと思い、邑彩会で活動しています。絵を通して地域のいろいろな年代の人たちと交流ができるのは楽しいですね。

平成5年から、邑美会の講師を務めています。人に指導することは、自分の勉強にもなります。個人個人のペースで気楽に絵を描くことが大切だと思っています。また、サークルのみんなの元気な顔を見たり、生徒さんの成長を見るのが楽しみなんです。これからも、大好きな絵を新鮮な気持ちと基本を忘れずに描いていきたいと思っています。



No.183 まちから 街角特派員 レポート

取材を終えて

今回の取材で、一人の画家が蒔いた一粒の種が脈々と受け継がれ、現在、邑楽町が絵画文化の発信地となっていると思いました。絵画は、描いている人もそうですが、見ている人の心にやしを与えてくれる、すばらしい世界。今回、梅澤千絵子さん、邑彩会、邑美会の皆さんを取材させていただいて、生き生きとした活動を見て触れることができました。私も以前、油絵を習っていましたが、皆さんに刺激を受けて、また絵を始めてみようかと思いました。今回、取材に快く協力いただいた皆さんありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

街角特派員 齋藤史子



7月10～18日、町立図書館で邑美会展を開催



邑美会

邑美会は、平成元年に邑楽町公民館の初心者絵画教室から生まれた油絵サークルです。メンバーは、40～70歳の男女15人。毎月第2・4土曜日の午前9時30分～午後0時30分まで邑楽町公民館で活動しています。

白石榮先生のもと、みんな和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。サークルでは、自分の技量に合ったペースで気楽に描いていますが、公民館での活動のほかに郊外に出てスケッチしたり、親ほく旅行に行ってお楽しんだりしています。現在、メンバーを募集中！初心者大歓迎ですので、絵に興味のある人は、ぜひ見学に来てみてください。お問い合わせは邑楽町公民館 ☎ 88-1290 へ。



薔薇

【油絵】

大拙操さん
（新中野・33区）



五浦海岸

【油絵】

渡邊裕子さん
（新中野・33区）



花の詩

【油絵】

白石榮さん
（十三坊塚・6区）
主な画歴 銀座大賞展入賞・入選、サロン・デ・ボザール入選
上野の森美術館日本の自然を描く展入賞・入選



山の春

【油絵】

小林なみ子さん
（本郷江原・29区）
主な画歴 上野の森美術館日本の自然を描く展入選